

【酒造好適米の需給状況（推計）】

令和5年産酒造好適米の生産量を農産物検査結果から推計しました。
より詳細な情報は、下記URLよりご参照ください。

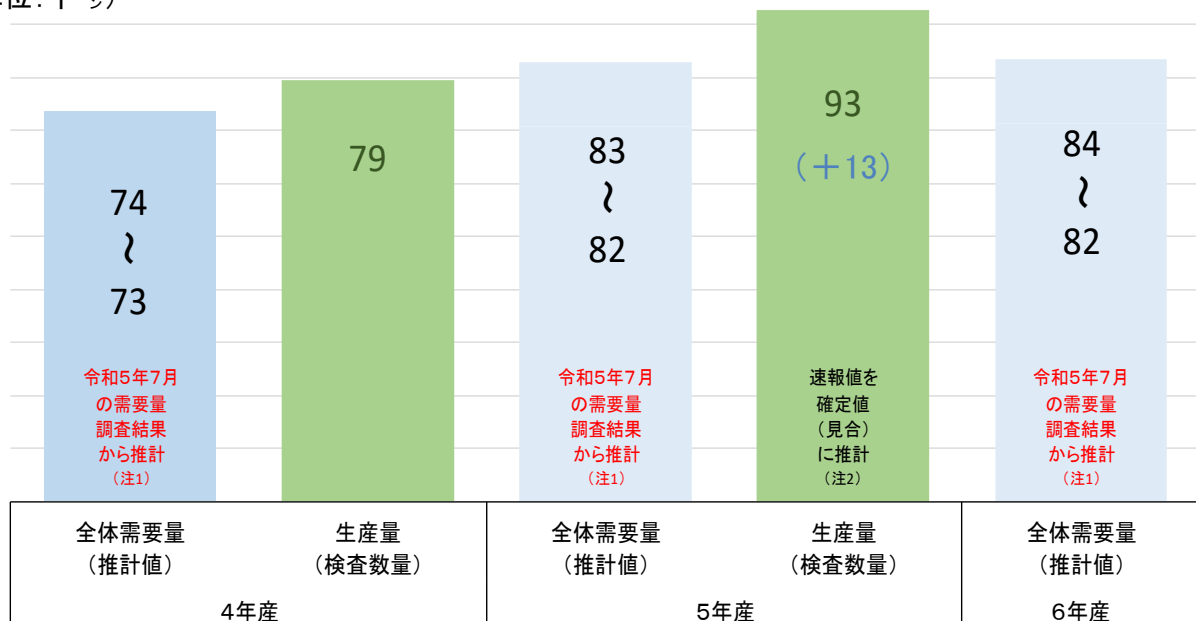
【 https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html 】

【令和5年産酒造好適米の生産状況】

- ・ 既報の令和5年10月号のマンスリーレポートで公表したとおり、昨年7月の需要量調査結果によると、令和5年産の全体需要量（推計値）は82～83千ト程度、令和6年産の全体需要量（推計値）は82～84千ト程度と見込まれます。
- ・ 令和5年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）が取りまとめられ、これを基に令和5年産酒造好適米の生産量を推計したところ、令和4年産から+13千トの93千ト程度と見込まれます。
- ・ 全体需要量は、昨年の調査以降、変動している場合があるため、令和6年産の作付けに当たっては、各産地において、自らの在庫状況、酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要です。

酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）

（単位：千ト）



注1：各年産の全体需要量（推計値）は、令和5年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する場合があることに留意する必要がある。

注2：生産量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和5年産は、令和5年12月31日現在の速報値を生近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

令和5年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- 令和5年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から93千トンと推計され、令和4年産から+13千トン程度（+17%程度）増加しています。
- 令和5年産は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復等により、需要量が増加すると見込まれたことから、生産量も増加しているものと考えられます。
- 主要な銘柄では、山田錦が対前年比+24%、五百万石が対前年比+16%、美山錦が対前年比+20%といずれも増加する見込みです。

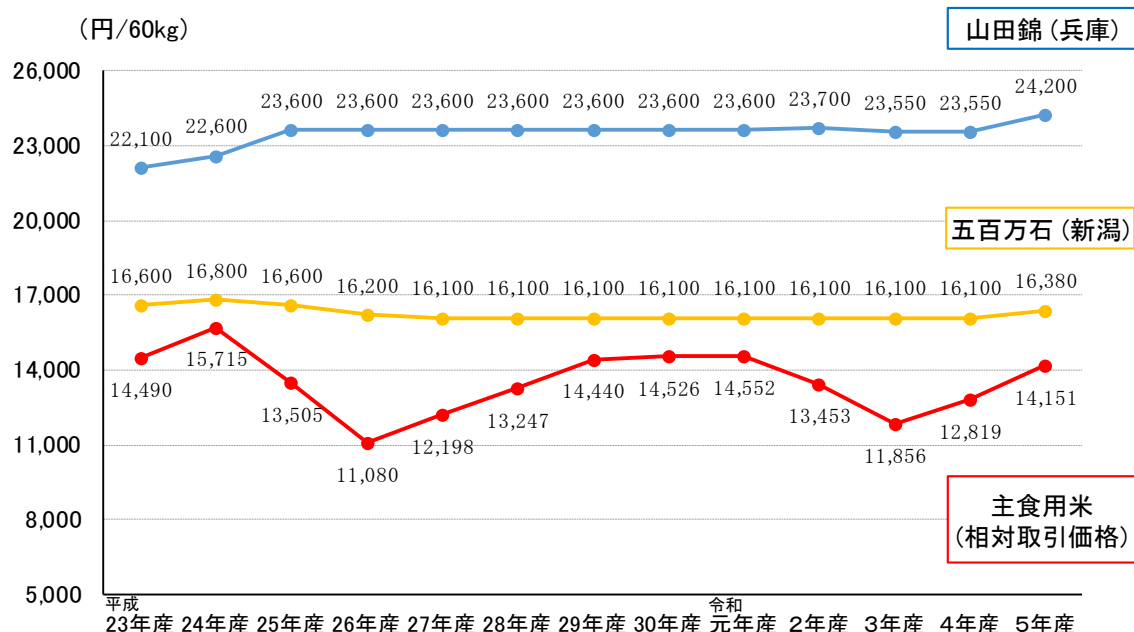
農産物検査数量（12月31日現在）及び令和5年産生産量の推計

（単位：トン、%）

銘柄	2年産		3年産			4年産			5年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	27,420	28,342	26,067	27,609	97.4%	26,928	28,168	102.0%	33,356	34,891	123.9%
五百万石	15,440	17,561	12,109	13,612	77.5%	13,110	14,970	110.0%	15,287	17,332	115.8%
美山錦	5,701	5,710	3,742	3,816	66.8%	3,730	3,742	98.1%	4,442	4,478	119.7%
その他	30,404	33,565	27,148	29,719	88.5%	29,608	32,592	109.7%	32,651	35,986	110.4%
総検査数量	78,966	85,179	69,066	74,756	87.8%	73,377	79,472	106.3%	85,735	92,687	116.6%

酒造好適米の販売価格（税抜）の推移

- 酒造好適米は、主食用品種に比べて栽培が難しく、収量が低いこと等から、取引価格は主食用米に比べて高値で取引されています。
- 令和5年産については、主要な銘柄では、対前年比+2～3%と堅調に推移しています。



注1：酒造好適米（日本酒造組合中央会からの聞き取り）は、1等米の販売価格。

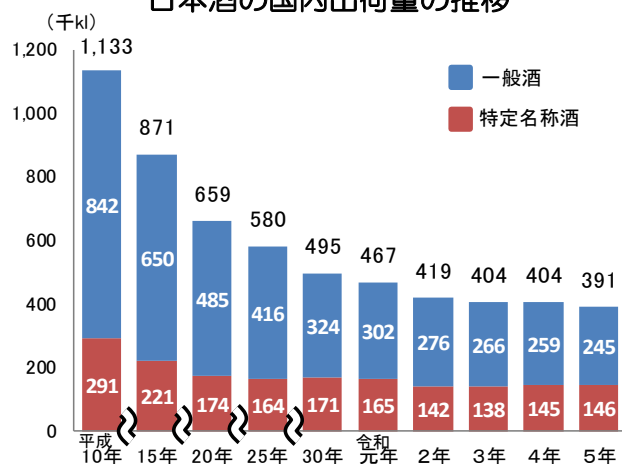
注2：主食用米（相対取引価格）は、出回りから翌年10月（令和5年産は令和6年1月）までの1等米の通年平均価格であり、包装代、運賃を含み、消費税相当額を含まない。

以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。
https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

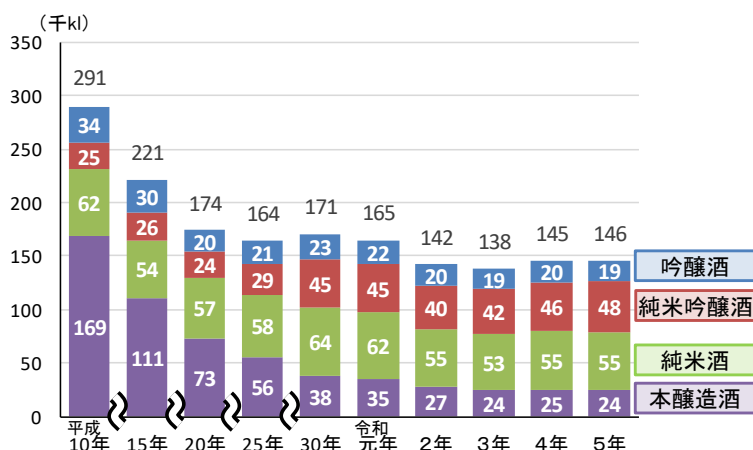
日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた酒造好適米を多く使用する特定名称酒についても減少に転じたところです。
- 令和4年は、日本酒全体としては、前年と同水準で推移しており、一般酒が対前年比▲3%と減少する中、特定名称酒は対前年比+5%と増加しました。また、令和5年においても、前年と同様の傾向が続いており、日本酒全体としては、対前年比▲3%と減少しました。

日本酒の国内出荷量の推移



特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和5年は概算値。令和5年12月分の石川県のデータが一部未集計となっている。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

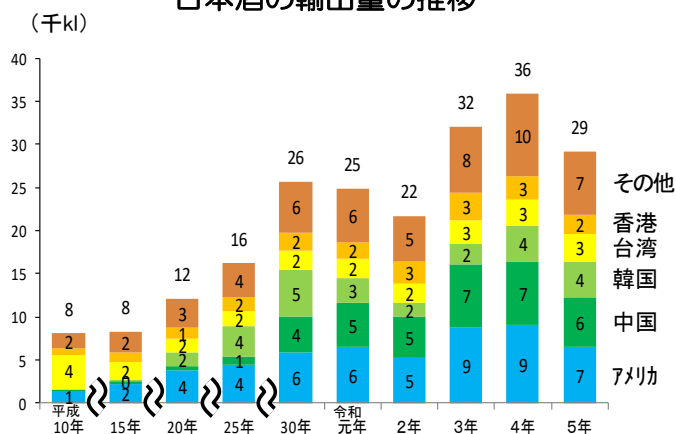
注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

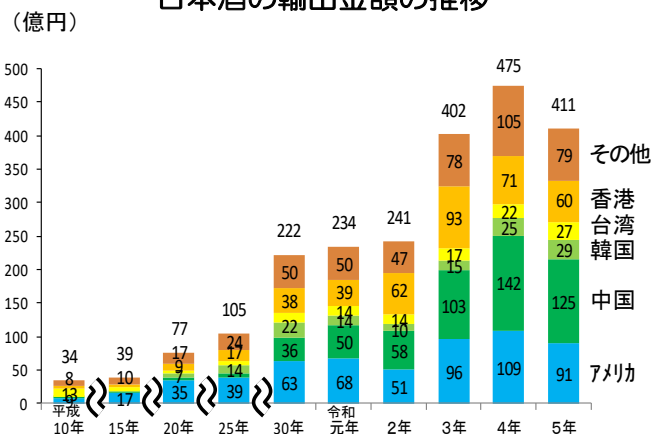
日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しています。
- 令和4年においては、輸出量は対前年比+12%、輸出金額は対前年比+18%と堅調に推移しましたが、令和5年は、アメリカ、中国への輸出の減少により、輸出量は対前年比▲19%、輸出金額は対前年比▲13%と減少しました。

日本酒の輸出量の推移



日本酒の輸出金額の推移



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。